

みずな

みんなで創ろう！あたたかさを感じられる住みよいまちづくり

令和3年9月25日号発行
高野地区まちづくり協議会
発行者：清水 敬

編集 広報部会

佐藤 晴之・柏山 裕喜・若杉 勇・
前田 薫・山本 一行・関 洋一・
橋口 榮彦・木村 光宏・木所 信智・
清水 敬・松見 由紀子・大手 兼一



第10号

どうすすめる地域&住民主導のまちづくり 「地域の理想実現ミーティング・地区別編」開く



守谷市の今年度重点政策を説明する松丸市長

守谷市は、令和3年度の重点政策として「地域&住民主導のまちづくり」を掲げ、この実現に向けた取り組みを加速化させている中で7月21日、市役所会議室で「まちづくり協議会」と行政との意見交換会と位置付けた「地域の理想実現ミーティング」が開催された。行政側からは松丸修久市長をはじめとした関係者、高野地区およびみずき野地区「まちづくり協議会」からは会長、役員等が出席、質問・要望等について相互討論を通じて課題認識の共有化を図った。

ミーティングは、まず松丸市長が挨拶の中で守谷市の人口推移・財政状況および重点政策などについて言及。

- ①「スマートシティ」を目指したデジタル化の推進、
- ②守谷スマートIC整備、③グリーンインフラ推進などの考え方と取り組みの現況について理解を求めた。

このあと、「高野地区」および「みずき野地区」からそれぞれ地域の概要説明のあと、

（高野地区は右記参照）行政への質問・要望などが提起された。高野地区の清水会長、各部会長からの質問・要望および回答・提案要旨は2面【別記】のとおり。

高野地区まちづくり協議会の概要説明

平成31年2月設立。

今年4月から第2期スタート、現在4部会・3プロジェクトで活動。高野地区は人口15000人、世帯数6000世帯、高齢人口（65歳以上）が占める割合は市平均より低い。緑が残る旧高野村と新しい街が混在する地区で、自治会・町内会が「28」あり、これらとの連携が課題。

【別記】高野地区まちづくり協議会からの主な質問・要望および回答・提案(要旨)

① 河川敷の整備

※答弁要旨は松丸市長および関係者等

Q1

高野地区河川敷、守谷SAのスマートインターチェンジ化等が進められている。その中で高野地区の河川敷だけ取り残されている？ また、調整池への漂流ごみ等、環境保全に対する対応は？

A1

高野地区の河川敷の活用について、今後関係機関で連携し、調整していく。ごみの違法投棄や大雨による川へのゴミ流入化等も同様に対処する。

② 防災対策

Q2

災害時避難所は高齢者によっては「行けない・行っても入れない」のが現状だ。防災用品の備蓄状況の把握は？ 要支援者の対応がバラバラだ。

A2

避難方法を再構築（コロナ禍、分散避難、自宅待機等）。要支援者の支援、自主防災等の役割も地域ごとに検討が必要。

③ 互助輸送

Q3

高齢者等の通院・買い物等の移動手段を支援するため、モコバス、デマンドタクシーを補完する施策の検討を？ 市外の商業施設等への移動の検討も。

A3

市外への対応は、行政区の違いからハードルが高い。他地域での実施は事業連携の合意があるから可能であって必要性を感じない他市との連携は難しい。

④ 地域福祉

Q4

生活支援コーディネーターの現況は？

A4

生活支援コーディネーターは社会福祉協議会が担うことで調整している。（市民協働推進課より）

⑤ 地域の安全

Q5

防犯カメラは最新機種への更新に加え、通学路、地域の安全を担保とするための増設も必要だ。

A5

犯罪追跡だけでなく「犯罪抑止」として、危険箇所への防犯カメラの設置は必要だと考えている。調査申請のあった必要箇所への設置費用・維持管理等の補助も検討したい。

⑥ 私権トラブル

Q6

民間対民間のトラブル(空き家・庭木の剪定・ゴミ等)は行政不介入だが、相談が多い。私権問題に行政・警察とも消極的だが条例も含め、指導・勧告等のより積極的な対応は？

A6

私権の保護と公的ニーズのバランスとの問題。条例等の整備で公的ニーズを優先することも方法のひとつだ。

サロン紹介 第3回

仲坪地区のサロン「ふくろう」

私のまちの支え合い

「オッ入った!」「あ〜あ」―歓喜と悔しさの声が飛び交う輪投げゲーム。輪を投げて得点を争うゲームから生涯スポーツへと発展し、高齢者の間でコミュニケーションのツールとして、さまざまなところで楽しまれている。

「仲坪公民館」。ここは、「ふくろう」の仲間たちが集まるサロンスペース。毎週水曜日の10時〜13時までの3時間、輪投げや体操などの健康づくりのほか、おしゃべり、昼食会などのサロン活動が展開され、終始笑い声が絶えない。

リーダーの小菅睦子さんは、「長い間ここで一緒に暮らしてきた人たちですから仲の良い人ばかり、何でも打ち明けてくれる人たちです」と話す。

この間、コロナ禍での活動を休止するサロンも少なくないが、「ふくろう」は『3密』を避け輪投げ、グランドゴルフ、体操など公民館の広い軒先や公園を活用しながら雨天の日も活動を続けてきた。2018年、女性中心の「ふくろう」に、男性の「高野シニアクラブ（会長・小菅忠さん）」が加わり、さらに楽しいサロンとなった。

新しい話題は、スーパーカスミの移動販売車がサロン活動の行われる日に公民館広場で出前サービスを開始したこと。サロンが行われる日は移動販売車が来る日でもあり、みんなが楽しんでいる。（橋口）



栄養・運動・社会活動の大切さと自分の現状を知ろう

「地域福祉部会」が介護とフレイル予防で学習会

地域福祉部会は7月5日、高野公民館で「介護とフレイル予防」について講演とフレイル体操を行った。参加者は総勢22人、講演者は七福神の中茎さん、中園さん、上野さんの3人。

最初に最新版「守谷市介護保険・高齢者福祉ガイドブック」に基づいて「介護保険制度」の概要とその利用について丁寧な説明が行われ、要介護認定、デイケア、ショートスティ入所などについてよく理解できた。この中では、南部地区包括支援センターの工藤さんから、「お近くの高齢者で困ったことあったら何でも相談してほしい」とのアドバイスがあった。

フレイル予防については、栄養・運動、社会活動の大切さや自己の現状を知るための簡易チェックなどの説明に続いて、フレイル予防の体操が行われた。

自分は歳をとるに従い、バランス感覚の衰えを痛感している。フレイル体操を通じてストレッチ、スクワットの大切さを再確認した。この研修は大いに勉強になった。熱心の指導してくださった七福神の3人に感謝いたします。

（橋川）



自分の力で釣り上げた「ザリガニ釣り」を忘れない



高野小学校2年生34人が参加

つゆ明け直前の7月13日、高野小学校の恒例行事「ザリガニ釣り」が高野地区の用水路で行なわれ、2年生34人が参加した。

はじめに高野地区まちづくり協議会副会長の会田光男さんがザリガニ釣りに先立って「仕掛けの作り方」や「釣り方」などを指導。

このあと、子供たちは用水路の周辺を陣取り、釣りを開始。想定したとおり、「釣れた!」と喜んだのも束の間、「ポチョン」という音とともに、ザリガニは用水路の中へ(残念)。ここで子供たちは会田さんの指導どおり、アミですくいあげる作戦へ。コツをつかんだ人、そうでない人、それぞれ成果は様々であったが、暑さを忘れて夢中で楽しめた1時間半であった。

自分で仕掛けをつくり、自然の中でのザリガニ釣りは、大きくなっても忘れられない思い出になるに違いない。



それぞれ釣果はさまざまだがいい思い出に。

めざせ! 未来のエンジニア

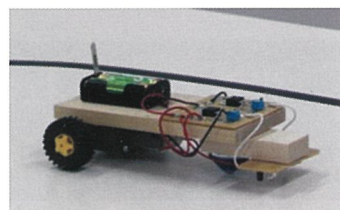
「ライントレースカー」づくりにチャレンジ

小中学生を対象とした「夏休み工作教室」が7月24日、中央公民館で行なわれた。テーマは、「ライントレースカー」を組み立て。小5~中3年生の子供たち10人が参加、元筑波大講師で守谷工務の市川道和さんが指導に当たった。

「自立式ライントレースカー」とは、光センサーとトランジスターを搭載し、白い紙の上に引いた黒線に沿って真っすぐ走ったり、左右に方向転換ができる、いわゆるロボットのような機能を備えている。中学生の教科書にも掲載され、子供たちの間で今、話題となっている。

「ライントレースカー」の部品の接着にはハンダゴテが使われるので、市川さんが子供たちにヤケドをしないようにと注意を促していた。組み立ては意外にもスピーディに進み、ほぼ全員が所定の時間内に完成、子供たちは黒いラインに沿って走るトレースカーに満足げな表情が印象に残った。

市川さんは、「ライントレースカーを組み立てると、必要とする動作がどのような回路とメカでできているのかを知ることができ、技術的、科学的な目で育てる」と話す。



光センサーとトランジスターを搭載したライントレースカーへの挑戦。

お知らせ

高野地区敬老行事について

コロナ感染拡大の中、
今年度の敬老行事の
実施内容は現在検討中です。



訃報のお知らせ

高野地区まちづくり協議会副会長の
会田光男氏が8月9日早朝に急逝されました。
心からご冥福をお祈り申し上げます。

高野地区まちづくり協議会

編 集 後 記

慎重論を押し切って開催された東京オリンピックに比べ、東京パラリンピックの評価が高い。なぜか?。それは、何といっても困難や障がい乗り越えようとする選手たちの躍動とスピリッツがマスメディアで何度も何度も伝えられたからではないか。そして、勝った・負けたというだけでなく、「人間の可能性」にチャレンジする選手たちがここに辿り着くまでどのようなトレーニングを行ってきたのか。インタビューやキャスターを通じて克明に伝えられ、想像を絶する思いにもさせられました。

今般、「人間の可能性へのチャレンジ」という言葉が多くの人の間で語られましたが、パラリンピックは、そのとおりだと認識させられています。選手およびサポーターの皆様のがんばりに心から拍手を送ります。(佐藤)